

明石海浜公園プール
運 営 要 領

2011年(平成23年) 7月 1日

2012年(平成24年) 4月 1日(改定)

2016年(平成28年) 6月30日(改定)

2022年(令和 4年) 7月15日(改定)

明 石 市

目 次

第1章	目的	1
第2章	プール管理計画	1
1	施設の概要	1
2	プール責任者の職務	1
3	衛生管理者の職務	2
4	水質管理の基準	3
5	管理体制表	4
6	従事者教育	4
第3章	管理基準	5
1	プール水の管理	5
2	附帯設備の管理	6
3	利用者の管理	6
第4章	安全・衛生管理	9
1	プール責任者の職務	9
2	プール副責任者の職務	9
3	プールの事故防止	11
4	清掃	13
5	場内巡回	13
6	救急救護	14
7	医務室	15
8	光化学スモッグ発令時の対応	15
第5章	窓口業務等	16
1	窓口業務	16
2	券売業務	16
3	改札	16
4	放送	16
5	両替	16
6	更衣室ロッカー	16
第6章	その他	18
1	場内放送	18
2	忘れ物及び落とし物	19
3	監視員の心構え	19
(別紙1)	運営管理体制図(例)	20
	プール施設平面図	21
(別紙2)	監視場所図	22
(別紙3)	ローテーション表(8人体制)(例)	23
	ローテーション表(16人体制)(例)	24

はじめに

明石海浜プールは、昭和54年7月オープン以来、水泳のできる手軽なスポーツ・レジャー施設として、老若男女を問わず多くの地域住民に利用されてきた。

水泳は、体を動かすこと、それ自体に対する人間の本源的な欲求に応えるだけでなく、爽快感、達成感、知的満足感、仲間との交流や楽しみ、喜びを与え、また青少年の育成、地域住民の健康、体力の保持増進に資するなど、心身ともに健康で活力ある生活を営んで行く上で、欠くことのできないものとなっている。

利用者が安心して楽しめるよう、プール運営に関して最良の努力が必要である。

なお、本書のプール運営要領は、「プールの安全標準指針（平成19年3月文部科学省及び国土交通省策定）」、「遊泳用プールの衛生基準について（平成19年5月28日付け健発第0528003号厚生労働省健康局長通知）」及び「遊泳用プール指導要綱（平成20年3月14日付け生第2202号健康生活部健康局長通知）」に基づき、実務要領を補完して作成したものである。

第1章 目 的

明石海浜プール運営要領は、「プールの安全標準指針（平成19年3月文部科学省及び国土交通省策定）、遊泳用プールの衛生基準について（平成19年5月28日付け健発第0528003号厚生労働省健康局長通知）」及び「遊泳用プール指導要綱（平成20年3月14日付け生第2202号健康生活部健康局長通知）」に基づき、遊泳用プールの衛生基準のあり方や施設の管理、利用者の安全管理等を具体的に定め、運営が円滑かつ安全第一をモットーにして実施できることを目的とし、「安全で利用者に喜ばれる施設」運営を目指す。

第2章 プール管理計画

1 施設の概要

(1) 建 屋

① プール更衣棟	事務室	27.56 m ²
	更衣室 男 コインロッカー460 個	142.56 m ²
	女 コインロッカー435 個	142.56 m ²
② プール管理棟	1F 食堂（売店含む）	49.50 m ²
	2F 会議室	40.00 m ²
	2F アルバイト詰所	16.00 m ²
	2F 事務室	28.00 m ²

(2) プール

- ① 50mプール [9コース 幅21.0m、長さ50m、深さ1.4m]
※ 水深台設置場所は深さ1.0m
- ② ファミリープール [変形 床面積1052.0 m² 深さ0.3m、0.6m及び0.9m、]
潜入!!海賊砦
 - ・ダイナミックウェーブ [高さ2.4m(すべり面より)、長さ17.8m]
 - ・ウォーター吊り橋 [高さ0.9m、長さ4.1m]
 - ・パニックバケツ [容量1.5t]
 - クラークンと大冒険 [長さ17.8m]
 - ちびっこ海賊船 [高さ1.4m(すべり面より)、長さ6.63m]
- ③ プールサイド 5,300 m²

2 プール責任者の職務

プール責任者は、当該プールについて管理上の権限を行使できる立場にあり、関与するすべての従事者に対するマネジメントを総括して、プールにおける安全で衛生的な維持管理及び運営にあたる。選任にあたっては、プールの安全及び衛生に関する知識が必要であり、公的機関や公益法人等の実施する安全及び衛生に関する講習会等を受講した者をもってあて

る。
なお、安全かつ衛生的な維持管理及び運営を確保するため、下記の事務を行う。

- (1) プール設備の使用前の点検
- (2) 日常のチェックリストによる点検
- (3) プールの管理計画の作成
- (4) 人事管理
- (5) 勤務管理

- (6) プール運営
- (7) 施設管理
- (8) 委託業者管理
- (9) 委託契約等
- (10) プール水の管理
 - ① プール水は常に消毒を行い、遊離残留塩素濃度がプール内で均一になるように管理する。
 - ② 浮遊物等汚染物質を除去し、プール水を水質基準に定める水質に保つ。
また、補給水の時期を常に把握する。
 - ③ プール水の水質検査は、遊離残留塩素濃度については午前中1回以上及び午後2回以上の測定を行い、水素イオン濃度、濁度、過マンガン酸カリウム消費量、大腸菌及び一般殺菌については月に1回以上、総トリハロメタンについては、7～8月の間に1回以上測定を定期的に行う。
- (11) プール設備、附帯設備及びその他の設備の維持管理
 - ① プール使用開始日前及び使用終了後、十分な清掃、設備の点検及び整備を行う。
 - ② 設備、機械の運転管理と保守管理が機能していることを確認する。
- (12) 利用者の管理
 - ① 利用者の安全を確保するため、プールの水域をもれなく監視できるようプールサイドまたは周辺の適当な位置に所要の監視員を配置させる。
 - ② 泥酔者及び他の利用者に迷惑を及ぼす恐れが明らかである者は、遊泳させない。
また、単独で遊泳が困難な者には、付添者を求める。
- (13) その他
 - ① プール業務日誌
プール利用の状況と実態を確実に把握し、関係者が共通の認識を持つため、業務日誌を毎日作成し、できるだけ詳しく記入して事後の改善計画や指導の上で役立たせる。
 - ② 従事者に名札を着用させる。

3 衛生管理者の職務

(1) 衛生管理者の職務

衛生管理者は、プールの衛生及び管理の実務を担当し、水質に関する基本的知識、プール水の浄化消毒についての知識を有し、プール管理のための施設の維持、水質浄化装置の運転管理、その他施設の日常の衛生管理において、プール責任者・監視員及び救護員と協力して、プールの安全管理にあたる。選任にあたっては、プールの安全及び衛生に関する知識を持った者であることが必要であり、公的な機関や公益法人等の実施する安全及び衛生に関する講習会等を受講した者をもってあてる。

なお、安全かつ衛生的な維持管理を確保するため、下記の事項の管理を行う。

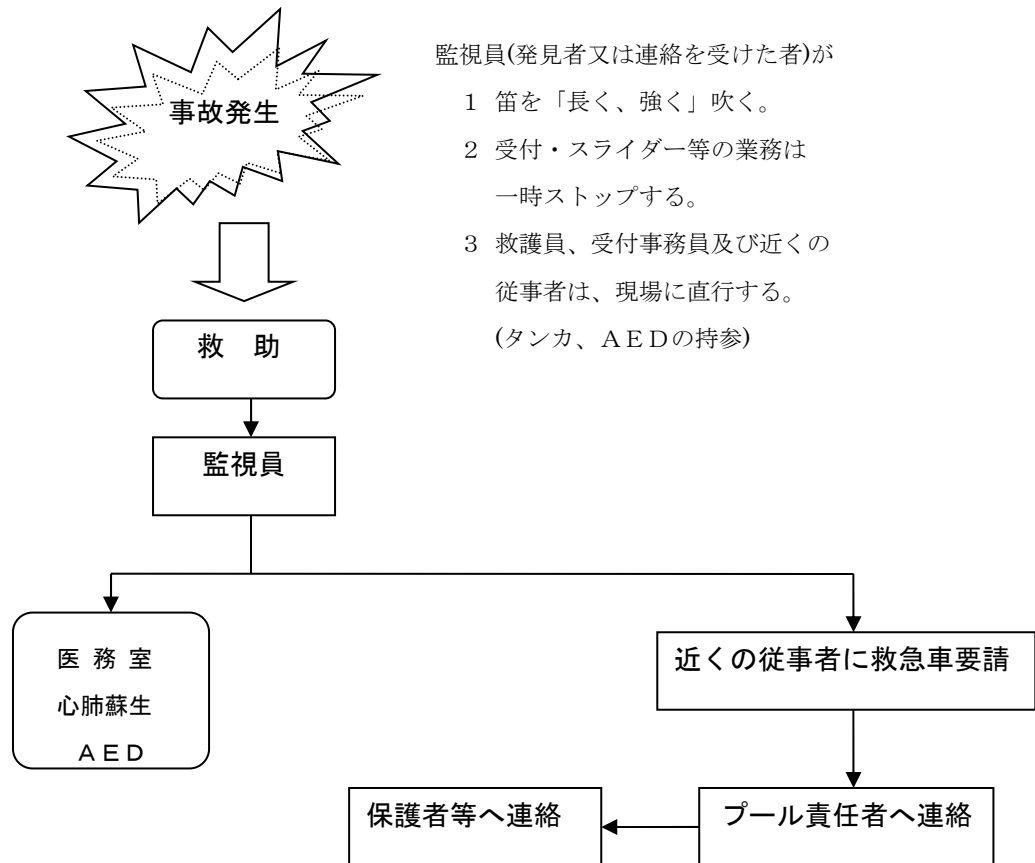
- ① プール水の水質基準遵守、補給水、沈殿・浮遊物除去等の管理
- ② プール設備の衛生維持管理
- ③ プール施設内の清掃と衛生維持管理
- ④ プールにおける疫病とその予防
- ⑤ プール施設内での事故防止と救護対策
- ⑥ その他、プール責任者の指示事項

4 水質管理の基準

①	水質検査の試料採水地点は、対角線上におけるほぼ等間隔の位置 3 箇所以上の水面下 20cm とすること。
②	水素イオン濃度は pH 値 5.8 以上、8.6 以下であること。
③	濁度は 2 度以下であること。
④	過マンガン酸カリウム消費量は 12mg/L 以下であること。
⑤	遊離残留塩素濃度は、0.4mg/L 以上、1.0mg/L 以下であること。
⑥	大腸菌は検出されないこと。
⑦	一般細菌は、200CFU/mL 以下であること。
⑧	総トリハロメタンは、暫定目標値として、おおむね 0.2mg/L 以下であること。
⑨	プール水の温度は、原則として 22℃以上とすること。また、プール水の温度が均一になるよう配慮すること。
⑩	レジオネラ属菌 100CFU/mL、10 以下であること。

5 管理体制表

- (1) (別紙1) 運営管理体制図 (例)
- (2) 緊急管理体制 (例)



- ① 溺水事故等、緊急安全確認が必要な場合は、全利用者をプールから引き揚げさせる等の対処を迅速に行う。AEDを使用する場合は、感電防止のため、水気のない場所で使用すること。また、傷病者の身体の水を拭きとってから使用すること。

6 従事者教育

- (1) 開場(営業)前には全ての従事者を対象に、事前教育を実施する。
- (2) 心肺蘇生法及びAED使用の実技講習を実施。
- (3) その他、中途従事者についても、事前教育、心肺蘇生法及びAED使用の、実技講習を受講してから勤務に就かせる。

第3章 管理基準

1 プール水の管理

プール水は、遊泳者とその施設的环境によって絶え間なく汚染されており、その水質が適正に管理されていない場合には、大規模な水系感染症の発生をきたす恐れがある。

(1) 塩素消毒と水質検査

① 塩素消毒

残留塩素には強力な殺菌作用があるが、その際殺菌作用を発揮するに伴って残留塩素が消費され減少する。したがって、常に減少量を補充していくことが要点となるので、下記事項を行う。

ア プールの指定された場所により毎時間サンプルを採集して濃度を測定する。

イ 残留濃度は0.4mg/L以上、1.0mg/L以下とする。

ウ 測定値に応じて塩素を補充する。

② 水質検査

ア プール水は、水質基準（第2章第4）を保持しなければならない。

イ 月に1回サンプルを採集して専門の分析機械に検査を依頼する。

③ その他

ア 足洗い場

トイレ入口の足洗い場は、トイレ使用時の足の汚れを除去するために使用するものである。

イ 床面の水垢、汚れ等は、ブラシで除去する。

ウ 満水した後、使用直前に適量の液体の塩素剤を投入する。

エ その後、随時液体の塩素剤の投入を行う。

オ 適宜、塩素濃度を測定して50～100mg/Lの範囲であることを確認する。

(2) 浮遊物等汚染物質の除去

プール水の浮遊物等汚染物質の除去は、浄化設備（循環ろ過装置）で行われているが自然環境によるもの（枯葉、苔、昆虫、飛来物、毛髪、糸くず、土砂等）で著しく汚染され、沈殿物が底に溜まってくる。

① 開場前のプール水清掃

プール内の沈殿物は、プールクリーナー（水中掃除機）を使って除去する。

ア 清掃時間・人員

原則として毎日8時30分から10時00分まで2名で実施する。

イ 区 分

ファミリープール：2台（手動プールクリーナー）

50m プール：1台（手動プールクリーナー）

ウ 手動プールクリーナーの取扱い要領

- ・ 沈殿物の溜まりやすい床の目地や内壁のコーナー部に吸込口をあて、ゆっくりと動かす。（速くすると沈殿物が舞い上がって吸い込まない。）
- ・ 排水ホースの先は、排水溝等に向けておく。
- ・ 吸込みの悪いときは、掃除機ストレーナー内のゴミを取り除く。

(3) プール水の補充

プールは、自然蒸発及び遊泳者によるオーバーフローで水位が低下するので、補充する必要がある。

① プール水補充の管理

基本的には委託業者が次の要領で補充を行う。

ア 各プールサイドのバルブを開閉して水量を維持させる。

イ 開場中は、適宜バルブを開閉して水量を維持させる。

ウ 開場前には各プール満水となるよう調整する。

2 附帯設備の管理

(1) 更衣室（男・女）

- ① 更衣室のロッカーは、閉場後、内部の点検を行い、忘れ物等の有無を確認する。
- ② 利用者の転倒防止用に設置されたマットは、適時屋外へ出して清掃するとともに、屋内床面の水分を十分に除去し、洗浄して乾燥させる。
- ③ 閉場後は、夜間乾燥させるため、すのこを立ててからシャッターを降ろして施錠する。

(2) ファミリープール各遊具

- ① 日常点検については、ユニット内面の傷、異物等の有無を確認するため、使用開始前に水中掃除をした者が点検しながら滑り台を逆に昇り、上から雑巾を尻にあてて滑る。
- ② スライダーの水の流れが著しく少ない時は、管理業者に連絡して調整する。
- ③ 遊具の運転は、スイッチを開場5分前にONにし、午後5時にOFFにする。
- ④ 事故発生時の措置

ア 監視員がトラブルを発見した時は、お互いに連絡し合い、スタートを中止させる。

イ 運行を一時停止した後、監視員はプール責任者に内容を報告し、処置の指示を受ける。

(3) プールサイド及び給排水設備

① プールサイド

プールサイドの床面は、水が溜まりやすい場所はぬめりができるため、利用者が滑って転倒しないように棒ずりでこする。

② 排水溝

プールに沿って設置された排水溝は、オーバーフローした水が溢れることのないよう、排水溝のゴミを除去する。

③ 給排水口

給排水口の蓋のゆるみがないか点検し、ゆるみがある場合はネジ等を締めて蓋を固定する。

(4) 洗眼設備

- ① 洗眼器は、常に使用できるようにしておく。
- ② 洗眼台は、適宜洗剤等を使って洗浄し、清潔にしておく。

3 利用者の管理

(1) 監視員の配置

監視員は、監視場所からプールの水域を漏れなく監視することができるよう適当な位置に相当数を配置する。

① 監視場所

監視場所を下記のとおり設定する。（別紙2）監視場所図（例）

ア ファミリープール各遊具

イ ファミリープール監視台

ウ ファミリープールパトロール

エ 50mプール監視台

オ 50mプールパトロール

カ ゲート

② 監視員の配置

監視員の配置及び員数については、利用者の安全を考慮して指定管理者が定め明石市の承諾を得ること。

（例）

- ・ 平日 8人体制（監視6人、休憩2人）
- ・ 土・日・祝日 16人体制（監視12人、休憩4人）

なお、配置人員数については、協議のうえ増員できる。

(2) 監視員のローテーション

① 勤務

勤務は10:00から17:00とし、監視員のローテーションは基本的に3勤1休（30分毎にポジションを3回廻って30分休憩）とする。

- ② ローテーション表の作成
監視員のローテーションは、(別紙3、平日・土日祝) ローテーション表(例)を作成し、表に基づき実施すること。
- (3) 入場の制限
- ① 公の秩序又は善良な風俗を害し、又は他人に危害若しくは迷惑をおよぼすおそれのあるとき。
- ② 光化学スモッグ及び警報等が発令されたとき。
- ③ その他施設の管理上支障があると認めるとき。
- (4) 行為の禁止
- ① 50メートル以上の泳力のない者又は小学生以下の児童及び幼児が50メートルプールを使用すること。ただし、小学生で50メートル以上の泳力があり、かつ保護者が同伴する場合を除く。
- ② 物品販売等の営業行為又は各種の宣伝行為をすること。
- ③ 必要なくプールサイドを走り又はプールへ飛び込むこと。
- ④ 立入禁止区域内に立入ること。
- ⑤ その他、注意表示及びプールの管理上必要と認める事項に違反すること。
- ※ 前項の規定に違反する者に対しては、プール責任者は、退場を命ずることができる。
- (5) 利用者の遊泳制限
伝染病罹患、遊泳が悪影響を及ぼす病気に明らかに罹患している者、泥酔者及び他の利用者に迷惑を及ぼす恐れが明らかである者は、遊泳させない。
また、下記の事項に関して、監視員等が注意しても遵守できない利用者は、退場させることができる。
- ① 小学生以下で保護者同伴でない者
- ② プールサイドを走る者
- ③ プールへ飛び込む者
- ④ 他人に迷惑をかける行為や悪ふざけ、危険な遊びをする者
- ⑤ ガラス製の水中メガネ、足ひれ、ボート類を使用する者
- ⑥ サンオイル等を塗ってプールに入る者
- ⑦ 飲酒してプールに入る者
- ⑧ びん類を持込む者
- ⑨ 所定の場所以外で飲食物等を喫する者
- ⑩ その他、監視員の指示に従わない者
- (6) 利用者数の把握
毎日の利用者数を記録するとともに、入場者数を予測し、水質維持管理、管理箇所(監視業務・窓口業務の人数等)、その他施設管理(巡回清掃回数)などの日々の管理体制を確立する。
- (7) 身体洗浄の徹底
プールに入泳する前に、シャワーなどにより身体の洗浄を十分に行わないと、汚染物質がプールに持込まれ、消毒剤を急激に消費することになる。
過剰な汚染負荷を減らすことから、シャワーを十分活用して汚れを落とすよう、利用者に徹底を図る。
- (8) 飲食、履物、遊具(浮輪等)の制限
- ① 飲食
飲食は所定の場所(食堂の前)で行ない、プールサイドでの飲食はプールの汚染原因となるのでやめさせる。
- ② 履物
ア 足洗い場からプール本体までの間は履物を利用させない。
イ ビーチサンダル等プール専用の履物(清潔なもの)以外でプールサイドを歩行させない。
ウ 特に、ハイヒール等かかとの高いものは危険なので使用させない。

③ 遊具（浮輪等）

- ア 50mプール内で浮輪、ボート類の使用をさせない。（水深台設置部は除く）
- イ 指摘に際しては、トラブルのないよう利用者に接する。

第4章 安全・衛生管理

1 プール責任者の職務

プール責任者は、次のことを行う。

- (1) プール開場前にプール全施設において安全点検を行う
- (2) 勤務時間管理
- (3) 備品、消耗品管理
- (4) 安全・衛生管理
- (5) 委託業者管理
- (6) 掲示物の管理
- (7) 入場引換券の管理
- (8) 入場者数及び料金管理
- (9) 次亜鉛素酸ソーダの発注
- (10) 利用者とのトラブル処理
- (11) 施設改善計画
- (12) 緊急時の処理
- (13) 施設トラブル時の対応

2 プール副責任者の職務

(1) 事務系

プール副責任者は、プール責任者の指示事項及び従事者の業務を指示・監督するとともに、下記の事項を行う。

① 窓口等の異常の有無の確認

ア 出勤時に窓口及び入口付近に異常がないか確認する。

イ 特に前日が雨の場合は、窓口が濡れていることがあるので留意する。

② 開場準備

ア 窓口の準備、事務所内清掃、場内清掃等、開場準備に係る業務に従事者に割り振り実施させる。

イ 釣り銭（現金／定額）を用意し、金額を確認した後、窓口に渡す。

ウ 職員に伝達事項があるときは速やかに伝える。

③ 窓口業務

ア 状況によりローテーションを変更することがあるので、その指示をし、時には補助する。

イ 窓口におけるトラブル及び問題点を処理する。

ウ 釣り銭の両替及び釣り銭を確保する。（特に入場者の増える休日前は注意する。）

エ 契約事業所発行の利用券を持参した人には、窓口で通常の入場券と引換えて入場させる。

オ 16時に窓口業務が終了した後、その日の集計表を作成し、チェックした後、日誌に入場者数、使用料などを記入する。

カ 釣り銭を確認し、当日の売上金を契約利用券とともに担当者に渡し、確認を受ける。

キ 両替金が必要なときは、担当者に連絡する。

④ 事務系職員の教育

ア 窓口業務についての教育

イ 監視業務についての教育

ウ 巡回経路についての教育

エ 特に新人には徹底した教育をする。

⑤ 放送について

ア 呼び出し、迷子、車の移動等、放送の指示をする。

イ 注意事項の放送を流す。

ウ 安全確認の放送を流す。

エ 随時BGMを流す。（近隣の迷惑にならないようボリュームを調整する。）

オ 16時50分、終了の放送（蛍の光）を流す。

⑥ 消耗品の補充

ア 窓口の消耗品等を管理し、補充が必要な場合は早めにプール責任者に報告する。

⑦ 来客の接待

⑧ 電話の応対

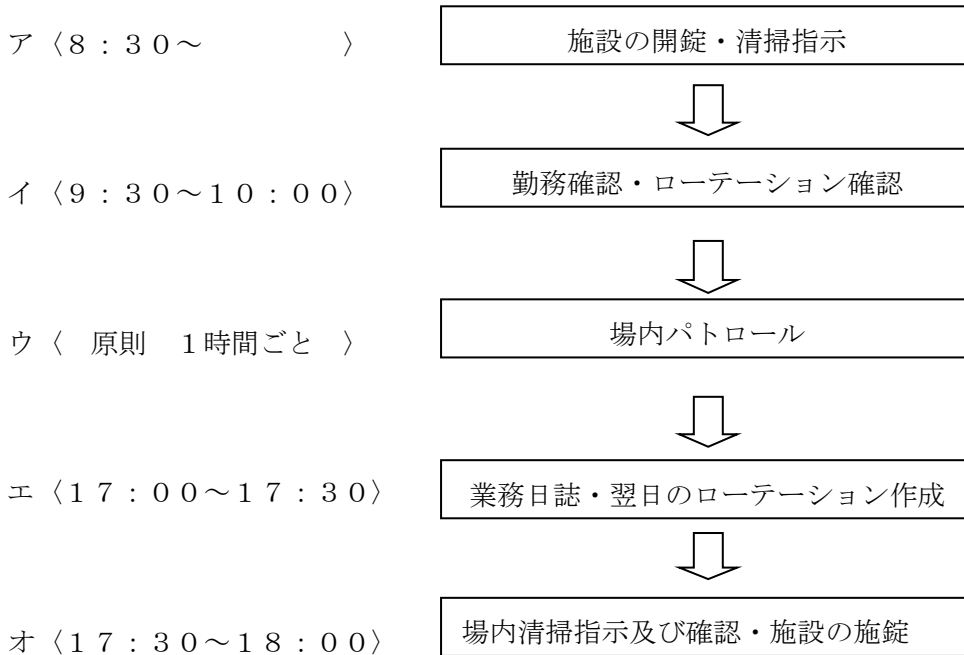
⑨ 閉場作業

ア ロッカー・場内清掃等、閉場にあって従事者に割り振られた業務を実施させる。

(2) 監視系

プール副責任者は、プール責任者の指示事項及び不在時の職務を代行するとともに、次のことを行う。

① フローチャート（開場準備から閉場確認まで）



② 業務内容

ア 施設の開錠及び清掃指示（8：30～）

- ・ 管理棟の外観及びゲートエリアを目視で確認した後、管理棟入口の開錠を行う。
- ・ 管理棟入口の開錠後、警備システムのロック解除を行った後、開錠する。
- ・ 事務室に入ったらクーラーのスイッチをONにし、ブラインドを開けてユニフォームに着替える。
- ・ 事務室で早出勤者の出勤を確認する。
- ・ プールクリーナー清掃区域を指示し、準備の助勢を行う。
- ＊ 10：00入場口を開錠する。

イ 勤務及びローテーションの確認（9：30～）

- ・ 事務室で通常出勤者を確認する。
- ・ 出勤者が予定通り出勤できないときは、ローテーションを再配置する。
- ・ 洗体シャワーを散水する。

ウ 場内パトロール（10：00～17：00）

原則として、1時間ごとに場内をパトロールする。

- ・ 監視員の指導。
 - ・ プール内異物浮遊の有無と措置。
 - ・ 利用者への安全指導や当プールでの遵守事項等の指導を行う。
- なお、パトロール結果はその都度プール責任者に報告する。

エ 業務日誌の作成及びローテーション作成（17：00～17：30）

- ・ 業務日誌には、プール内の出来事や実施した内容、指導事項等きめ細かく記載する。

- ・ 翌日の出勤予定者に応じたローテーションを作成する。
- オ 場内清掃指示及び確認・施設の施錠（１７：３０～１８：００）
- ・ 場内を一巡し、異常の有無を確認した後、監視員に清掃の指示を行う。（ロッカー内の点検、清掃を含む。）
 - ・ 清掃中の監督及び清掃後の確認をした後、夕礼を行う。
 - ・ 施設の施錠を行い（管理棟、更衣棟）事務所の消灯と戸締りを行う。

ローテーション作成要領

- ① 早出勤者には、最初に休憩を与える。
- ② 従事者同士の立ち話がないよう、人間関係に留意する。
- ③ 早上がりの者は、休憩回数が通常のマイナス１回に成るようにする。

（３）プール管理者

公認プール（５０ｍ）には、「プール公認規則（財団法人日本水泳連盟 2010. 4. 1 施行）第 15 条①に定めるいずれかの資格を有するものをプール管理者として置かなければならない。

なお、プール管理者は、プール水泳競技施設としてふさわしい環境を備え、かつ利用者にとって有益で快適な運営が行われるように指導、勧告又は助言を行うものとする。

（４）その他

スタッフミーティング時の運営、人事、改善対策等の打合せ内容等を記録に残すこと。

3 プールの事故防止

（１）監視員の服装及び職務

監視員は、遊泳者の救助及び災害予防を第１に考え、すぐに救助できる服装（水着等）で監視にあたること。また、他の遊泳者に迷惑を及ぼす恐れのある者、掲示されている利用上の注意事項に違反する者等に対する注意や指示は当然の事ながら、特に遊泳中の事故防止を図るため、各々の監視場所で守るべき安全管理ポイントを完全に遂行する義務がある。

（２）監視場所

第３章３（１）①（別紙２）監視場所図（例）

（３）安全管理ポイント

① 潜入!!海賊砦

・ダイナミックウェーブ

- ア 利用者が正しい姿勢で滑るよう指導するとともに、確認してからスタートさせる。
- イ 時計、メガネ、サングラス、ネックレス、ブレスレット、水中メガネ、浮輪、その他の物で怪我や事故の原因になるような物を身に付けていないかチェックを行う。その様な物を着用していたら滑らせない。
- ウ 滑降中の利用者が安全に滑っていることを確認する。
- エ 列への割込み者には、毅然とした態度で対処する。
- オ 初心者には滑走方法のアドバイスをする。
- カ 着水場所及びスライダーに人がいるときに、滑ろうとする者は制止する。
- キ 利用者が着水したら速やかに着水場所から離れるように誘導する。
- ク 着水後、利用者が浮上しない時または溺れかけている時は、迅速に救助する。
- ケ 状況に応じて滑降者の着水を補助する。
- コ 着水場所に外部から人が入れないように誘導する。
- サ 着水地点付近の安全を確認する。

・パニックバケツ

- ア 放水後、利用者が浮上しない時または溺れかけている時は、迅速に救助する。

・ウォーター吊り橋

- ア 利用者が安全に利用できるように目を配る。

② クラークンと大冒険

- ア 利用者が安全に利用できるように目を配る。

③ ちびっこ海賊船

- ア 着水場所及びスライダーに人がいるときに、滑ろうとする者は制止する。
- イ 利用者が着水したら速やかに着水場所から離れるように誘導する。
- ウ 着水後、利用者が浮上しない時または溺れかけている時は、迅速に救助する。
- エ 状況に応じて滑降者の着水を補助する。
- オ 着水地点付近の安全を確認する。

④ 監視台・パトロール

- ア 常に利用者が安全な状態で遊泳していることを確認する。
- イ 走りながら飛び込む場合は、厳しく注意する。
- ウ 幼児は成人等に比べ、溺れる確率が高いので特に注意する。
- エ 親と離れている幼児は、目を離さないようにする。
- オ 幼児用浮輪を使用している時は、目を離さない。(足の出る浮輪は、横転した場合、元には戻らない。)
- カ ビーチボール遊びは人が多くなって危険と思われる時は止めさせる。
- キ 飛び込みをしないように指導する。
- ク 水深があるので、泳力のない者や身長の高い者には、特に注意する。
- ケ 50mプール内では、浮輪、ボート等は使用しないよう指導する。
ただし水深台設置部は除く。
- コ その他異常を発見した場合、迅速に救助又は処置をする。
- サ 溺水事故、緊急安全確認が必要な場合は、全利用者をプールから引き揚げさせる等の対処を迅速に行う。

⑤ 50mプールゲート

- ア 50m以上の泳力のない者又は小学生以下の児童及び幼児は入場させない。
但し、小学生で50m以上の泳力があり、保護者同伴でかつ保護者が水着着用の場合に入場できるが、必ず目を離さないことを注意する。(保護者による監視を呼びかける)
- イ 水深台設置部については身長120cm以上であれば入場できる。身長120cm未満の者については保護者同伴でかつ保護者が水着着用の場合に入場できるが、必ず目を離さないことを注意する。(保護者による監視を呼びかける)
- ウ 水着を着用していない者は入場させない。(小学生の保護者同伴で水着を不着用の者も含む)
- エ 浮き輪、ビーチボール、足びれ、ボート等を持ち込んでいる者は入場させない。
ただし、水深台設置部は混雑していなければ、浮き輪等は利用可能とする。
- オ 出入り口の幅に注意する。
- カ 保護者と一緒に利用される場合、1人の保護者に対して子供は2人まで、必ず保護者と一緒にプールに入る。「必ず目を離さないこと」と保護者に監視を呼びかけ注意する。

⑥ 更衣室

- ア 監視及び窓口・ゲート業務配置者以外で適宜担当する。
- イ 利用者にはロッカーの使用を促す。(コインロッカーは鍵をかけずに使用すると盗難の恐れがある。)
- ウ 盗難防止に留意する。(更衣室内を適宜パトロールする。)
- エ 洗体シャワーの水量を留意する。
- オ ゴミの回収、トイレの衛生等に留意する。

(4) 監視員共通事項

- ① 監視員はスタッフTシャツ及び名札を着用すること。
- ② ポジション交替時は、必ず引継ぎ者が来てから次の場所へ移動する。
- ③ 監視台では正しい姿勢、服装で監視する。(腕まくりや裸、足の投げ出し、監視台以外で座ることは禁止)
- ④ 炎天下の監視は、眼、頭、肌を十分保護して衛生管理に努める。
- ⑤ 場内の異常(設備)を発見したら、速やかにプール責任者に連絡する。
- ⑥ 利用者とはトラブルのないよう言葉遣いや態度は謙虚に振舞うこと。

⑦ プール従事者同士で立ち話はしない。

4 清掃

プールでは様々なウィルスや細菌が、プール水を介して耳鼻や口あるいは眼へ侵入し、様々な感染症を引き起こす恐れがある。利用者は、裸や素足で諸施設を使用するため、特に床の汚れに嫌悪感をもよおすため、トイレやシャワー室等常に清潔にし、人身でプール水を汚さないよう予防するとともに利用者が快適に過ごせるようプールサイドや施設等の清掃を行う。

(1) プール内

プール内には、プールエリア面から飛来したゴミ、虫や目地にできたコケ類が大量に浮遊、沈殿する。床面に沈殿した汚れを除去するため、開場前（1時間～1.5時間）にプールクリーナーで行う。

(2) プールサイド

ゴミ、虫等やコケ類、カラスのフン等は、開場前（30分間）に除去する。閉場後は監視員全員で紙くず、空き缶等を回収する。

(3) 食堂コーナー

食堂コーナーでは、利用者の喫食した食べ残しが床面に散乱しているので、十分清掃を行う。

(4) 更衣室

① トイレ

監視員の巡回及びプール副責任者もパトロール時に、便器及び床面が汚されていたら直ちに洗剤を使って洗い流す等の措置を取る。

また、閉場後は水を流して清潔にし、週2回は洗剤を使って清掃する。

② シャワー室・洗面所

閉場後、水を流してブラシ、スポンジ等で清掃する。

(5) 洗体シャワー設備

床面にカビや汚れができたなら、適宜洗剤を使ってブラッシングを行う。

(6) 足洗場

同 上

5 場内巡回

プール責任者は適宜場内を巡回して、異常の有無を確認する。プール副責任者は、原則として1時間毎に場内を巡回し、下記の事項を行う。

(1) 監視員の指導

① 監視員が定められた監視位置でホイッスルを十分使用して利用者の指導をしているか。

② 腕まくりや裸、足上げ座り等、みだらな又はだらしない態度をしていないか。

③ 従事者同士で立ち話をしていないか。

④ 居眠りや携帯電話の操作等、監視に集中していない等、不具合を指導する。

(2) プール内異物浮遊の有無

プール内に汚物、異物等の有無を確認し、措置を行う。

(3) 利用者への安全指導

利用者の遵守すべき事項（「プールご利用の注意」等標識に掲示している事項）で、特に次の事項を心掛ける。

① 走りながらプールへ飛び込む

② プールサイドで走る

③ サンオイルをぬってプールへ入る

④ ハイヒール等の禁止

⑤ プールサイドでの飲食の禁止

(4) その他

- ① ロッカー室内の盗難予防
- ② トイレ汚染の処理
- ③ プールサイドの汚染処理

6 救急救護

人の集まるところでは、常に何らかのトラブル（問題）が生じる可能性がある。

しかし、このトラブルがアクシデント（事故）に発展するか否かはその場にいる人の対処の仕方と日頃の対策や心掛け一つであり、未然に大きな事故を防ぐことは可能である。

(1) スタッフの教育

管理者及びスタッフ全員が、消防署等の実施する心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）の講習を受講する。

(2) 溺水者の救助

原因の如何にかかわらず、水中で何か問題があれば結果として溺れるという危険性がある。そこで、まず溺水者を救助してから救助処置を施すということは頻繁に起こりうる。水中での救助には特別な技術を要することが多いが、概して傷病者は水温のため体温が低下して心肺障害の進行が遅いためか、陸上に比べて心肺蘇生法が重要である。

- ① 50mプールでは、水深があるので潜った後、浮上が遅いときや両手をバタバタしている等の様子が見られたら、監視員は直ちに飛び込んで救助する。
- ② 負傷者に意識がないときは、直ちに周囲の従事者に119番通報並びにAED持参を依頼するとともにその場で心肺蘇生を行い、必要な処置をとる。

(3) 心肺蘇生措置

① 気道確保

意識がなければ、直ちに気道確保を行う。

② 人工呼吸（感染防護具がない場合は省略可）

ア 自発呼吸が停止していたら、人工呼吸を行う。

イ 鼻をつまみ、被災者の口を完全に覆うようにかぶせて息を吹き込む。

ウ 胸が軽く膨らんだら口を離し、肺から呼気が出て胸が沈むのを確認してから再び息を吹き込む。

(4) 胸骨圧迫（心臓マッサージ）

- ① 2回の人工呼吸が終われば、直ちに胸骨圧迫を開始する。

- ② 胸骨圧迫は、胸の真ん中に「胸骨」と呼ばれる縦長の平らな骨があり、圧迫するのはこの下側半分、この場所を探すには、胸の真ん中または乳頭と乳頭を結ぶ線を目安にする。

- ③ 肘をまっすぐ伸ばして体重をかけ、むねを4～5cm圧迫する。

※ まっすぐ上から圧迫し、ねじ込んだり、斜めに押しつけない。

- ④ 1分間に100回の速さで連続30回圧迫する。必ずしも30回の圧迫である必要はない。絶え間なく、十分な強さで行われることが大切。

※ 圧迫と圧迫の間（圧迫を緩めている間）は、胸が元の高さに戻るように十分に圧迫を解除する。

- ⑤ 子供や幼児の場合は強く圧迫することのないように注意する。

⑥ 圧迫を30回行ったら人工呼吸を2回行う。(以後、繰り返し)

⑦ AEDが到着すれば、AEDと心肺蘇生を救急車が到着するまで繰り返し行う。

7 医務室

医務室には常に救護員1名を常駐させ、利用者の救急処置にあたらせる。

- (1) 切り傷、擦り傷の手当て
- (2) 病状に応じた適切な処置
- (3) 救急車の要請

8 光化学スモッグ発令時の対応

発令時における周知事項(注意報以上の場合)

- (1) 屋外での運動は避け、屋内に入る。
- (2) 目に刺激や痛みを感じたら、洗眼する。
- (3) のど、鼻に刺激や痛みを感じたら、うがいをする。
- (4) 症状のひどい場合は、医師の指示を受ける。

例 場内放送(注意報以上の場合)

「只今、光化学スモッグ_____報が発令されましたので、
ご来場のお客様はご注意ください。できるだけプールから
あがって、あわてず、屋内に入ってください。

～くりかえす～

第5章 窓口業務等

1 窓口業務

- (1) 券売・改札（入場確認）
- (2) 電話などの応対
- (3) 落とし物などの保管、落とし主の確認及び返却
- (4) 場内放送
- (5) 事務所内の清掃
- (6) 料金集計
- (7) その他、プール責任者が指示する業務

2 券売業務

- (1) 開場前
 - ① プール責任者から入場券及び釣り銭用現金（定額）を受け取り確認する。
- (2) 開場中
 - ① 現金又は契約利用券と引換えに日付・出納員を押印した入場券を入場者に渡す。
 - ② 入水しない付き添い者や見学者も入場料が必要
 - ③ 保護者（高校生以上）の付き添いのない子供（小学生以下）の入場はさせない。
 - ④ 入場券等の払戻しはできない。
 - ⑤ 接客態度に留意する。
 - ⑥ 事務所への来客は用件を確認して通用口から事務所へ通す。

3 改札

- (1) 開場までに入口付近の清掃をする。
- (2) 午前10時に開場する。
- (3) 改札口が混雑する場合は、走らないよう順序良く入場するよう指示及び誘導する。
- (4) 入場券は大人券、子供券に分ける。
 - ① 入場券半券を回収しながら入場人員をチェックし、券のないものは入場させない。
 - ② あいさつを心掛けるなど、接客態度に留意する。

4 放送

- (1) プール責任者等の指示により、あらかじめ定められた要領により放送する。
- (2) 迷子は、一旦預り、親を呼び出す。
- (3) 利用者から放送内容（メモを渡し、用件を書いてもらう）を受け取り、正確に放送伝達する。

5 両替

- (1) 両替金の不足が予想される場合は、早めにプール責任者等に申し出る。
- (2) 両替の際は、十分確認する。
- (3) 席を離れるときは、盗難に十分留意する。

6 更衣室ロッカー

- (1) 更衣ロッカーの使用時間は、使用者の退場時までとする。
- (2) コインロッカーは、費用弁償として1回につき100円を雑入として徴収する。

- (3) 既納の料金は還付しない。ただし、コインロッカーが故障し、使用できない場合は、この限りでない。
- (4) ロッカーの故障や鍵の紛失があった場合は、プール責任者等に連絡するとともに、氏名、電話番号を記入させる（悪用防止）コインロッカーの鍵を紛失したとき、器具交換費として実費を徴収する。
- (5) 室内を巡視し、盗難の防止に努め、必要に応じロッカーの使用法を説明する。
- (6) 鍵をかけない者には、注意し、鍵をかけさせる。
- (7) 終業後にロッカーを点検し、遺留品を回収・整理する。
- (8) 故障したロッカーがあった場合は、プール責任者等に報告する。
- (9) トイレ及びロッカー内の清掃をする。

第6章 その他

1 場内放送

「小さいお子さま連れの方にお願ひします。お子さまがプールサイドを走ったり、プールへ飛び込んだりすることがないように十分注意してください。」「衣類及び手荷物は、盗難防止のためにロッカーに100円を入れ、必ず鍵をかけてご利用ください。お金を入れずに使用されますと、無断使用となりますのでご注意ください。」「ロッカーの鍵は紛失しないよう各自で保管してください。」「以上のことを守り、楽しくプールをご利用ください。」

(1) 呼び出し・迷子・車移動

所定の用紙に必要事項を記入してもらい放送する。

① 呼び出し

呼 出 し
お客様にお呼び出しいたします。 (呼び出したい方の住所・氏名) _____町 _____からお越しの _____様 (呼び出す方の氏名) _____様がお待ちですので _____ *入口ゲート 至急 *事務所前 _____までお越しください。

(5～6秒間隔で繰り返す)

② 迷 子

迷 子
迷子のお知らせをいたします。 ・子供の服装 _____色の服・水着を着た ・子供の氏名 _____さん ・子供の住所 _____からお越しの ・子供の年齢・性別 _____才の _____男の子 ・ _____女の子 を、お預かりしています。 保護者の方は至急事務所までお越しください。

(5～6秒間隔で2回放送する)

③ 車の移動

車の移動
お車の移動をお願いいたします。 (呼び出したい車の車種・ナンバーなど) 車種 _____ ナンバー _____ のお車の方 ① 通行の妨げになっています。 ② その他(_____) 至急、お車の移動をお願いします。

2 忘れ物及び落し物

(1) 落し物の処理

当日、事務所に届けられた落し物は、当日分の落し物収納カゴに保管する。特に、ロッカーの鍵については、利用者が申し出てきたときに鍵の番号を必ず確認して手渡す。

また、番号が分からないときは、ロッカーまで一緒に行き、内容物等を聞いて開錠し、確認する。

(2) 忘れ物の処置

- ① 当日、事務所に届けられた忘れ物は、当日分の落し物収納カゴに保管する。
- ② 開場後、場内及びロッカー室での忘れ物はすべて回収し、当日分の落し物収納カゴに保管する。

(3) 保 管

- ① 当日分の落し物、忘れ物には、荷札及びテープなどで日付を付ける。
- ② 所定の場所へ日付毎に区分した収納カゴを保管する。なお、1週間を過ぎたものについては、一括して大きな収納カゴで保管する。

(4) 処 分

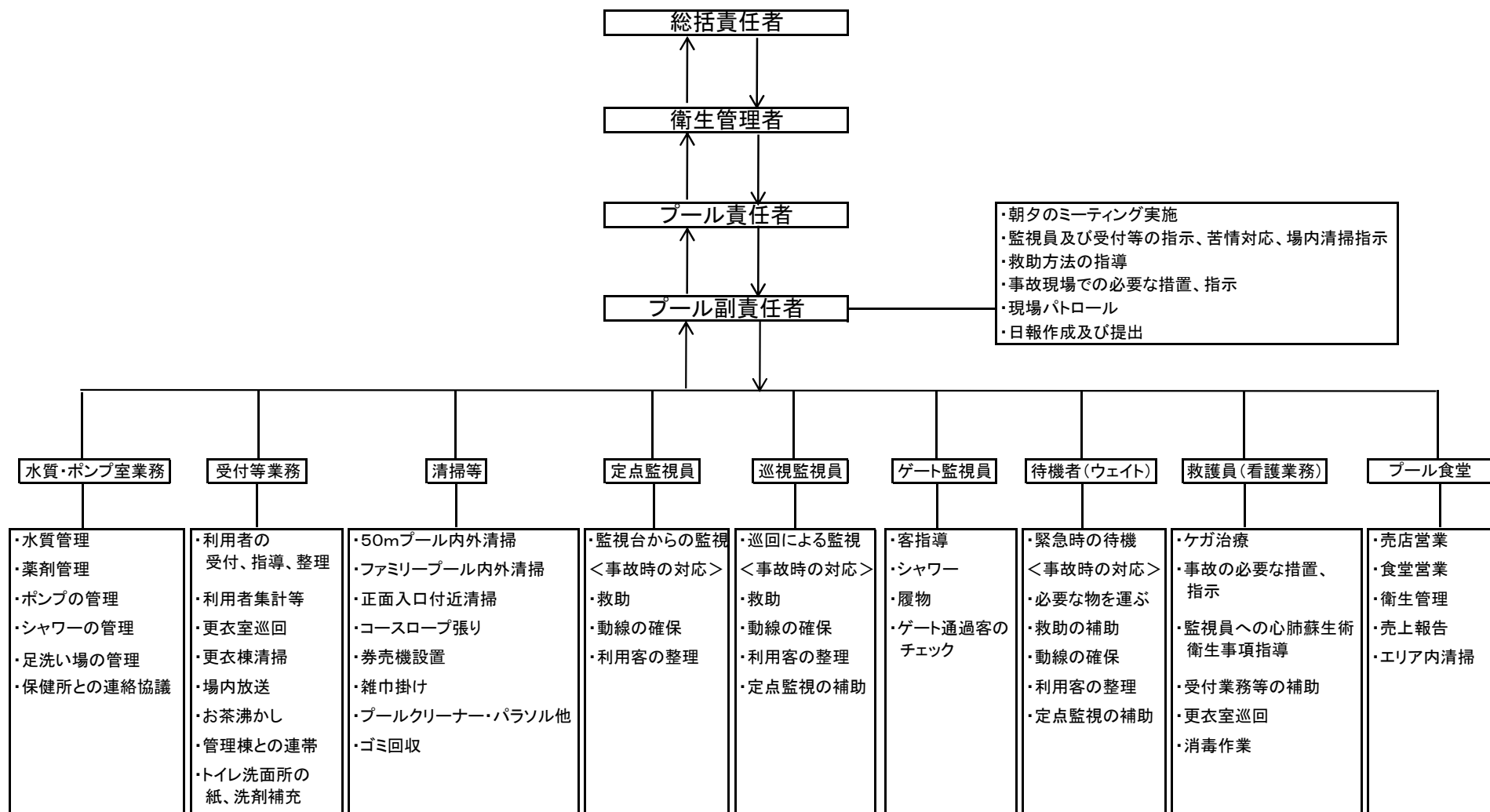
約2カ月間保管し、申し出がなければ処分する。

3 監視員の心構え

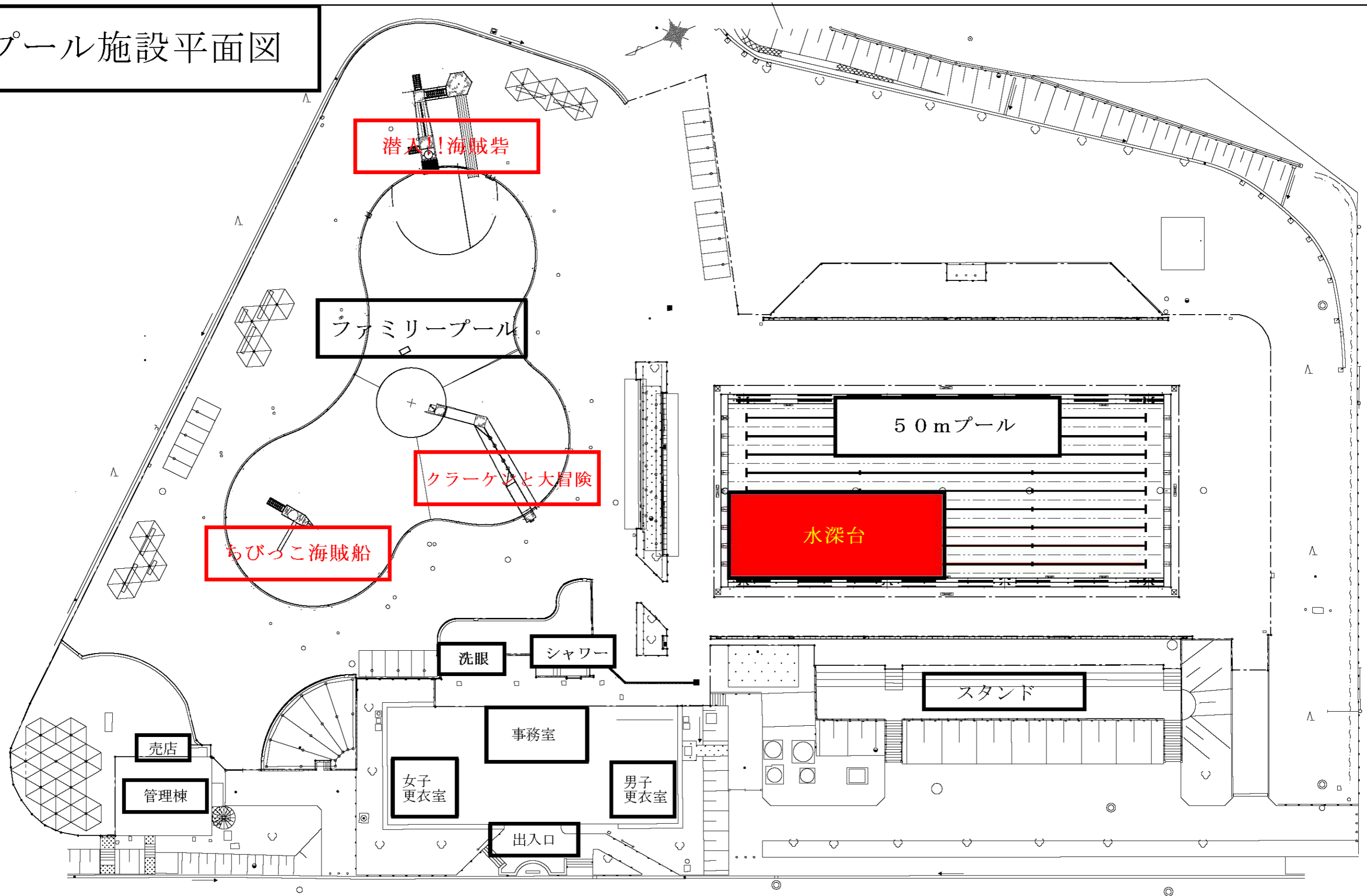
(1) 基 本

- ① 水の事故は、即、死につながります。お客様に楽しく利用していただくために、常に緊張感を持って監視にあたること。
- ② 「お客様の命をお預かりしているんだ」という気持ちを忘れずに。
- ③ 常に機敏で、非常時に備えておくこと。
- ④ 決められた服装は、必ず正しく着用すること。
- ⑤ 勤務中の監視員間の私語は慎むこと。(放送に注意)

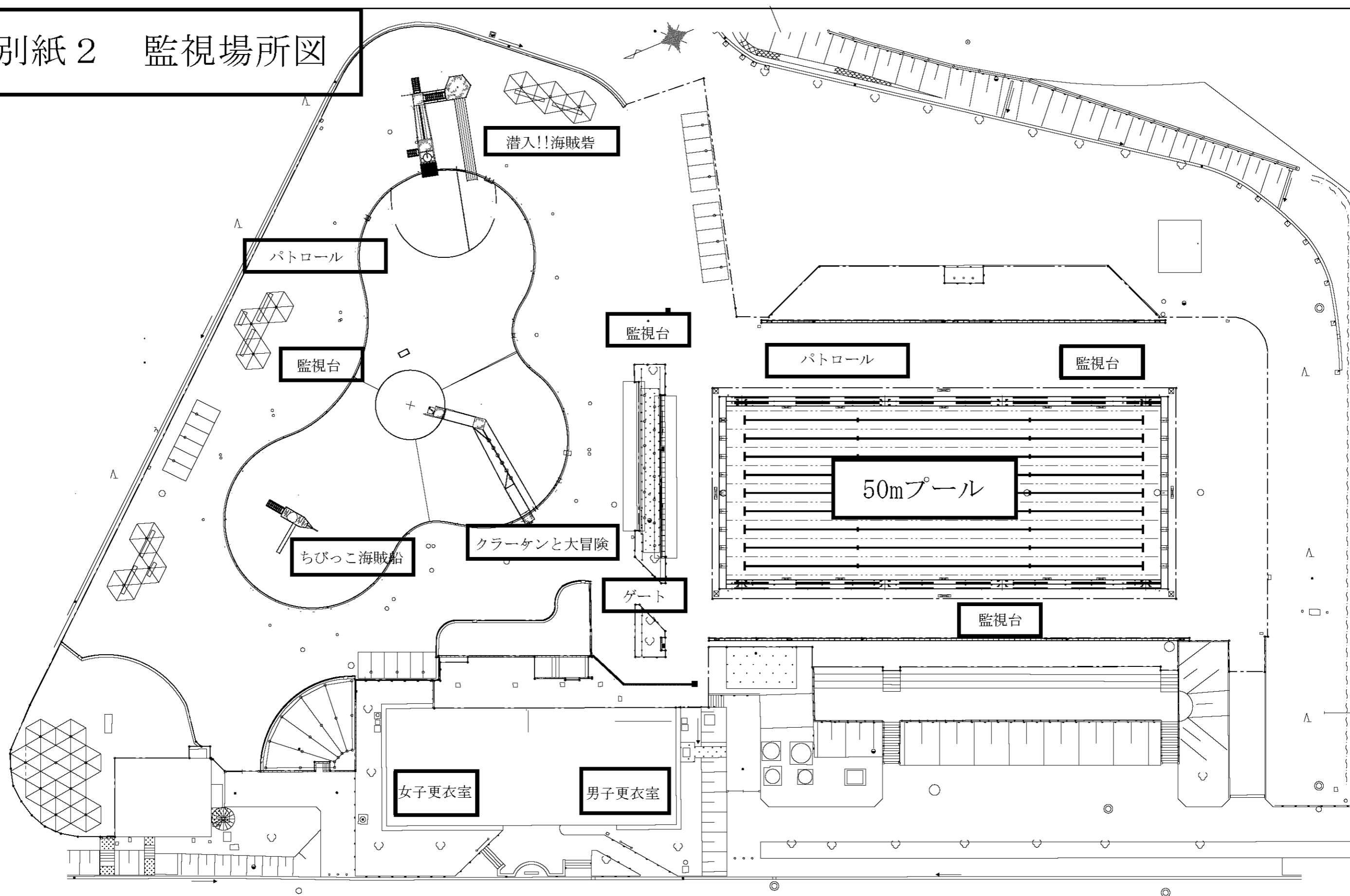
運 営 管 理 体 制 図



プール施設平面図

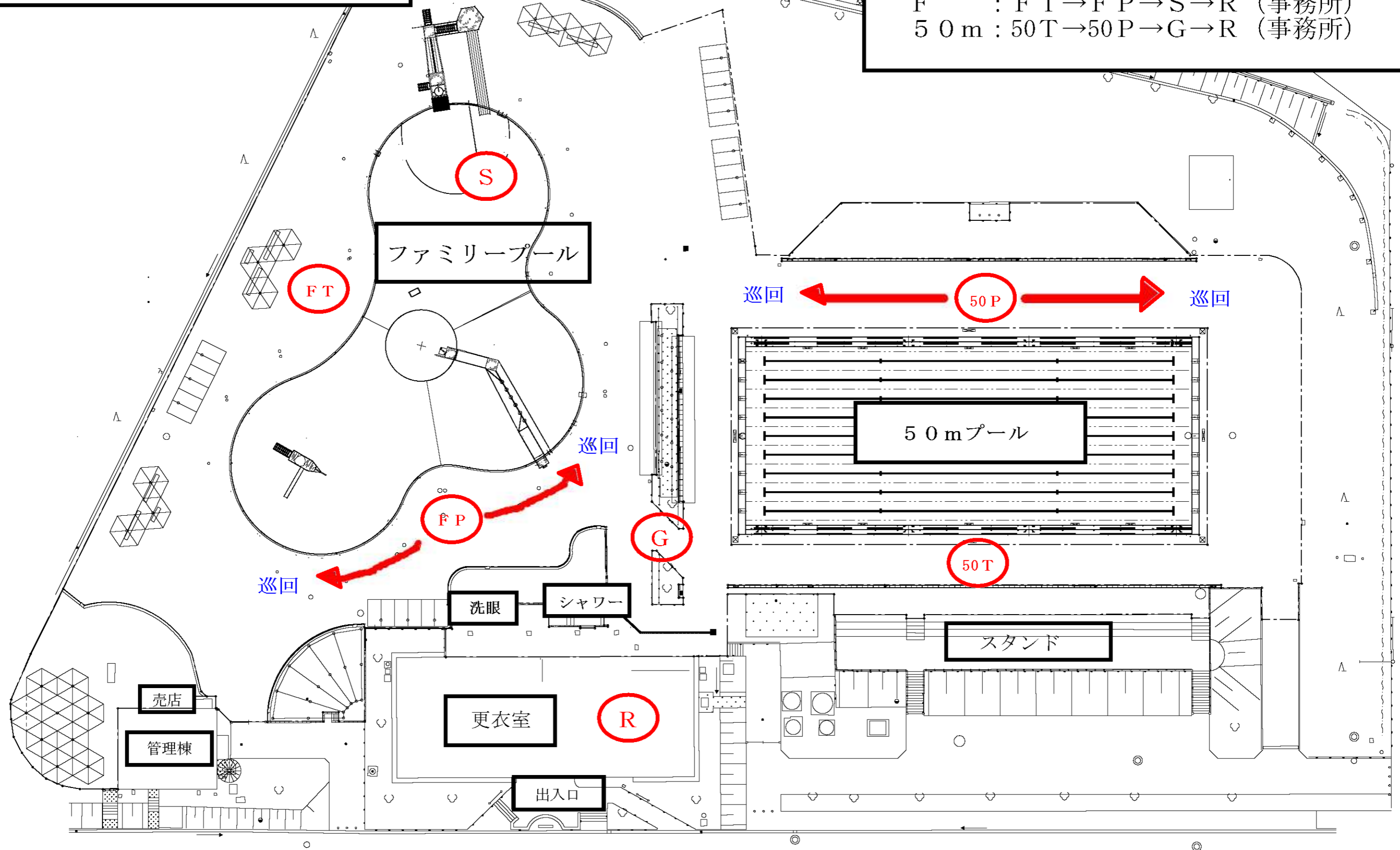


別紙 2 監視場所図



別紙3 ローテーション表(8人)

◎平日ローテーション表◎ <8人体制>
 F : FT→FP→S→R (事務所)
 50m : 50T→50P→G→R (事務所)



別紙3 ローテーション表 (16人)

◎土日祝ローテーション表◎ <16人体制>
 F : FT1→FP1→S→R (事務所)
 : FT2→FP2→G→R (事務所)
 50m : T1→T2→P1→R (事務所)
 : P2→SC→P3→R (事務所)

